（財）財務会計基準機構会員

各　位

平成２２年2月１９日

会 社 名　　大 倉 工 業 株 式 会 社
代表者氏名　　代表取締役社長　髙濵 和則
（コード番号 ４２２１ 東証第一部）
問合せ先　取締役ｺｰﾎﾟﾚｰﾄｾﾝﾀｰ経理部長　豊田 員史
（TEL ０８７７－５６－１１１１）

減損損失の計上及び個別実績値の前期との差異に関するお知らせ

当社は、平成 21 年 12 月期において、下記のとおり減損損失の計上を行うことといたしました。また、個別の業績予想数値を開示しておりませんが、平成 21 年 12 月期の実績値と前期（平成 20 年 12 月期）の実績値との間に差異が生じましたので、以下のとおりお知らせいたします。

記

１．減損損失の計上について

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、香川県仲多度郡まんのう町に所在する光学フィルム製造設備について減損処理を行い、減損損失を計上することといたしました。

本件に伴い、平成 21 年 12 月期の連結及び個別決算において、特別損失として減損損失７億４千５百万円を計上いたしました。

２．個別実績値の前期との差異について

(1)平成 21 年 12 月期個別業績と前期実績との差異（平成 21 年１月１日～平成 21 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
平成 20 年 12 月期実績(A)	百万円 ６５，２７７	百万円 △２，０６７	百万円 △２，２１８	百万円 △６，９７３	円　銭 △１１３．７２
平成 21 年 12 月期実績(B)	５３，７３２	△１，１４４	△９３４	△２，２８４	△３７．２８
増減額（Ｂ－Ａ）	△１１，５４４	９２２	１，２８４	４，６８９	７６．４５
増減率（%）	△１７．７	－	－	－	－

(2)差異の理由

売上高につきましては、すべての事業部門において販売数量が減少したことに加え、建材部門の高松営業所を廃止したこと等により、大幅に減少しました。

営業利益、経常利益につきましては、大幅な固定費の削減に努めた結果、改善しました。

当期純利益につきましては、前期と比較して 46 億８千９百万円改善しました。その理由は、前述のとおり経常利益が改善したことに加え、前期は、合成樹脂フィルム製造設備について減損処理を行い、減損損失を 36 億１千５百万円、繰延税金資産の回収可能性の見直しによる取崩しを行い、法人税等調整額 15 億４千２百万円を計上したこと等により、69 億７千３百万円の損失となりましたが、当期は特別損失が 13 億４千３百万円に減少したため、22 億８千４百万円の損失にとどまりました。

以　上